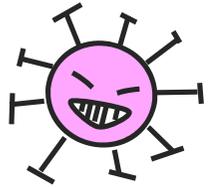


感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

2024年6月号
横浜市衛生研究所

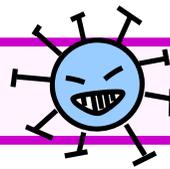


感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
新型コロナウイルス感染症	流行	横ばい	ピークは過ぎたが終息とはいえない状態 今後も注意が必要
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	流行	横ばい	昨年の12月にピークに達し、以後減少なく推移
RSウイルス感染症	流行	横ばい	例年の同時期に比べて患者数は多め (本来は秋～冬の感染症)
梅毒	(全数報告)	増加	5月中旬以降増加、20～50歳代が中心 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】
侵襲性肺炎球菌感染症	(全数報告)	増加	4月下旬～5月中旬にかけて患者数が増加傾向 【小児の感染症】 【大人の感染症】

<参考HP>

厚生労働省 [国立感染症研究所](#)

今、気をつけたい感染症

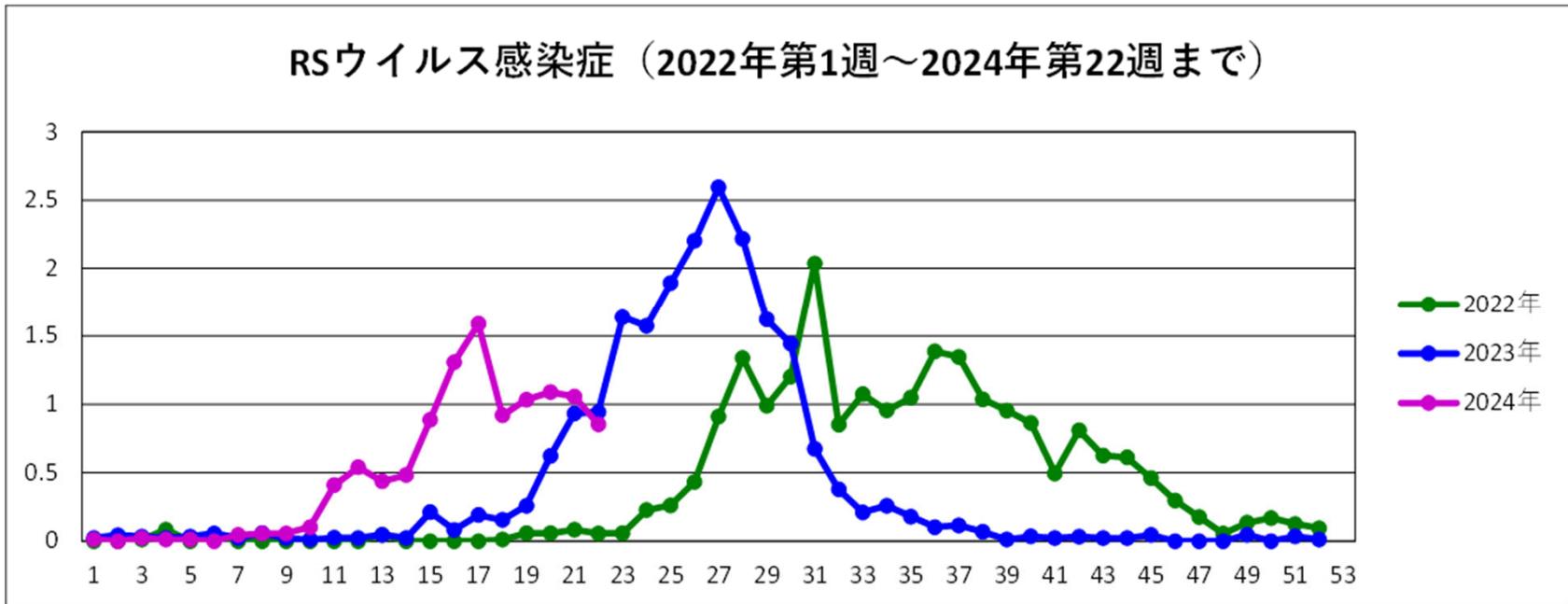


RSウイルス感染症

- RSウイルス感染症は、本来なら秋から冬にかけての感染症。
- それがここ数年、流行の時期が早まっている傾向にあるんだ。



RSウイルス感染症（2022年第1週～2024年第22週まで）



- ほとんどの子が、2歳までに一度はかかるといわれている感染症。
- 多くは軽症で済むけれど、乳幼児や高齢者などはまれに重症化することがあります。

- 予防にはまず手洗い。アルコール速乾性手指消毒薬も有効。マスク着用もおすすめ。
- まずは「周りの大人が広げない」ことから始めましょう！

